

DOWAホールディングス（5714）企業分析レポート

作成日：2026年02月13日

2. 【直近5年の業績推移】

決算期	売上高 (百万円)	営業益 (百万円)	経常益 (百万円)	EPS (円)	配当金 (円)	寸評
2021.03	588,003.0	37,454.0	37,200.0	368.5	—	増収増益
2022.03	831,794.0	63,824.0	76,073.0	857.3	—	過去最高益
2023.03	780,060.0	44,610.0	55,501.0	420.8	—	減収減益
2024.03	717,194.0	30,003.0	44,745.0	467.9	—	減収減益
2025.03	678,672.0	32,226.0	43,598.0	455.6	—	営業益小幅増

3. 【財務・キャッシュフロー概要】

決算期	営業CF (百万円)	投資CF (百万円)	財務CF (百万円)	現金残高 (百万円)	自己資本比率 (%)
2021.03	—	—	—	—	44.4
2022.03	—	—	—	—	47.7
2023.03	50,725.0	-30,343.0	-19,758.0	37,760.0	52.6
2024.03	118,630.0	-26,261.0	-59,204.0	73,049.0	58.9
2025.03	12,827.0	-41,418.0	-4,120.0	41,249.0	59.2

4. 【財務コメント】

自己資本比率は直近で約59%まで上昇し財務体質は堅い。一方、投資CFはマイナスが継続し、24/3期は営業CF増で現金増、25/3期は現金残高が減少している。

5. 【会社概要】

DOWAホールディングスは、環境・リサイクル、製錬、電子材料、金属加工、熱処理の5事業を展開する非鉄系企業。鉱山・製錬で培った技術を基に、廃棄物処理と金属回収を結び付けた循環型ビジネスモデルを強みとする。

6. 【歴史】

1884年に藤田組が小坂鉱山の払い下げを受けたことを起点とし、黒鉱製錬や水力発電などを背景に事業基盤を形成。1945年に同和鉱業へ商号変更（設立）以降、製錬・金属加工・熱処理などへ展開し、現在の多角化事業体へ発展した。

7. 【立ち位置】

非鉄金属セクター内でも、製錬と環境・リサイクルを連携させた“資源循環”の色が濃いのが特徴。加えて、電子材料・金属加工・熱処理でニッチ高付加価値領域も持ち、景気・相場の影響を受けつつも複数事業で収益源を分散する構造にある。

8. 【見解】

中長期的には、資源循環（都市鉱山）と製錬を一体運用できる点が強みで、重要鉱物の回収・再資源化ニーズが高まるほど事業機会が広がりやすい。加えて自己資本比率も高く、投資局面でも耐久力はある。一方で、直近は営業利益が弱含み、金属価格やデリバティ評価、持分損益など相場要因でプレやすい面が残る。短期では特別利益や株主還元の影響が株価を押し上げやすく、材料の剥落後に本業の収益回復が伴うかを継続確認したい。

10. 【株価・市場情報】（2026年02月12日時点）

株価(終値・円)	PER(倍)	PBR(倍)	配当利回り(%)	信用倍率(倍)	時価総額(億円)
10,170.0	11.2	1.50	3.13	9.10	6,304.0

11. 【同業他社比較】

銘柄名	株価(円)	PER	PBR	時価(億)	特徴
DOWA(5714)	10,170.0	11.2	1.50	6,304.0	製鍊と環境・リサイクルを連携し、多様な原料から金属回収を行う循環型モデルが特徴。電子材料・金属加工も持ち収益源を分散。
三井金属(5706)	25,990.0	34.58	4.33	14,900.0	非鉄大手。銅箔で世界首位級とされ、半導体材料にも強み。自動車部品にも注力し高付加価値領域を狙う。
住友金属鉱山(5713)	10,795.0	20.86	1.54	31,400.0	非鉄金属と電子材料が両輪。ニッケルにも強みがあり、海外鉱山開発など資源上流への重点投資を進める。
三菱マテリアル(5715)	250.0	34.3	0.96	6,903.0	総合材料メーカー。加工・電子材・超硬工具・鉱山が柱で、仲銅品首位。事業が広く景気循環の影響も受けやすい。
東邦亜鉛(5707)	1,713.0	17.89	3.28	232.0	鉛・銀の製鍊大手。鉛でシェア首位。亜鉛はリサイクル事業、電子材・機能材料も展開。
ARE HD(5857)	4,150.0	13.31	1.98	3,307.0	貴金属リサイクルと廃棄物処理の2本柱。都市鉱山からの回収に強みがあり資源循環テーマとの親和性が高い。

12. 【投資成功シナリオ】

資源循環・リサイクル需要が構造的に拡大し、スクラップ集荷量と回収単価が安定的に伸びる。熊本などの拠点投資が計画通り稼働し、処理能力増強が収益化に直結。電子材料は情報通信・電子部品向けが底堅く推移し、相場要因（貴金属・ベースメタル）に過度に依存しない利益体质へ移行する。株主還元（増配・自社株買い）が継続的に実施され、資本効率改善が評価されることでバリュエーションが切り上がり、上昇局面が長期化する。

13. 【投資失敗シナリオ】

金属価格変動やデリバティブ評価の影響で利益がぶれ、営業利益が想定ほど戻らない。リサイクル原料の調達競争が激化して調達コストが上がり、回収量は伸びても利幅が縮小する。拠点投資は進むが立ち上がりが遅れ、固定費負担が先行して利益を圧迫。電子材料も需要鈍化や価格競争で伸び悩み、相場要因の寄与が剥落した局面で市場評価が急速に冷える。特別利益や一時的な株主還元が一巡した後、期待が剥がれて調整が長引く。

14. 【メモ】

直近は通期純利益・配当予想の上方修正と自社株買いが株価材料。一方、営業利益は弱含みで本業の回復が鍵。特別要因の剥落後に、リサイクル・製鍊の稼働と利幅が維持できるか注視。